２００７年9月3日　１３：００～１５：２０
斜面工学研究小委員会　編集委員会
出席者：稲垣、岩佐、上野、桜井、鈴木、中村（洋)、簗瀬、太田

「新潟県中越地震土砂災害学習マップ」編集委員会

（１）　全体工程

出来上がり予定１０月２０日。最終原稿から１週間で印刷可能。
地形図の許可番号を取得する必要があるので、１０月１０日には原稿ができている必要がある。許可をとるのに最低２週間かかる。

（２）　費用

１０００部印刷で約３６万円。２０００部でも１～２万円増なので２０００部作成。
Ａ１デザイン料　８０００円。デザイン料を入れても４０万以内でできる。いま見積もりしていただいたところに頼む。

（３）　学習マップの記載内容

①タイトル：新潟県中越地震土砂災害学習マップ
　委員会名称：社団法人　土木学会　地盤工学委員会　斜面工学研究小委員会
②数値地図 1:25000 を最新のものにする。(作成時期がわからないと申請できない。)
　道路や天然ダム・ため池の状態が変っているので。
　★図の変更箇所
　・①地点（妙見）の道路をつなぐ（開通しているので)。
　・寺野に入る道路を記入する（県道からは良く見えないので)。
　・種芋原付近の道路も変更する。
　・山古志トンネルを入れる（旧道のままになっていたので)。
　・濁沢地すべりの前の道路が変っている。
　・東竹沢の道も変っている。
　・南平の牛舎のところの道も変っている。
③道路・鉄道のトンネルと道路不通の場所をわかるようにする。
④震源を星マークで表示
⑤小平尾断層を表示：色は白色
⑥地名を記入する箇所
　番外編とコラムの場所。コラムはアルファベットの小文字の丸囲み（ａ、ｂ、･･･)、番外編はローマ数字の小文字の丸囲み（ｉ、ii、iii）
　・番外　ｉ：一ツ峰、ii：遊砂池、iiiおよびiv：堰堤　＋高町団地の住宅地被害を追加
　・コラム　ａ：中山トンネル、ｂ：闘牛岩、ｃ：盗人塚
　・高速道路ＩＣ　小千谷ＩＣ
　・道路名は、高速道路と国道○号のみ入れる
　・トンネル名は山古志トンネルを記入

・河川名は魚野川を追加

⑦トイレマーク　山古志支所、道の駅２箇所

⑧駐車場マーク　山古志支所、道の駅２箇所、中山トンネル入り口

⑨案内図の配置

地質図、案内図、空中写真、凡例（道路・ため池・集落・地すべり崩壊）、許可番号、川の向き

（４）　修正した図を中村委員と上野委員で９月１２日に打ち合わせし、チェックする。

（５）　学習マップの内容

・カンマと読点が混在しているところを修正。

・寺野（⑧）、せき止め土砂量３０３m3 は間違いのはず。桜井委員が確認して上野委員に連絡。迂回路のコメントを入れる。ルビは印刷屋さんに頼む。

・遊砂池の「ち」は、池か地か。桜井委員が調べて上野委員に連絡。

・「地図の背景」の記事は、地図の側にのみいれ、コラムのところには入れない。

・新潟県は長岡地域振興局まで記載。長岡市は資料提供なしなので入れない。

・⑤油夫川の対策工の表は、他とバランスが取れないので、文章中に入れる。

・油夫川の空中写真の出所が不明なので、上野委員が確認する。

・提供していただいた写真は写真の中に提供者名を小さく書き入れる。委員からの提供写真には書かない。一つ一つの写真について出所を確認した。

・下之沢の写真がぼやけているので印刷屋さんにシャープにしてもらうよう頼む。もう一つの滑落崖付近の写真を桜井委員が上の委員に送る。

・下之沢の地すべりは国交省に移管されたので、名前が変っている。上野委員が確認して修正する。

・地すべり対策のマンガは、印刷屋さんに作り直してもらう（無断引用なので）。

・表紙の陰影図の中の Mj は M に改める（専門家でない人が見るので）。

・表紙の住宅の写真を田植えの写真に差し替えて、番外編に高町団地の写真と説明を入れる。高町団地の説明文は太田委員が３行以内で書いて上野委員に送る。高町団地は、地図の中に位置を入れないので説明文の中に地名を入れる。

（６）　配布用の文書

・新聞社への投げ込み（プレスリリース）、学会誌への投稿の原稿を太田委員が作成する。

・ホームページに電子データをアップロードするとともに希望者に無償配布する。

・部数の再検討が必要（最低３０００部）。桜井さんがどの程度の部数が必要かを試算する。

・英語版は日本語版の反応を見て考える（英語版は説明文だけを作成して日本語版と一緒に配布すればよいので岩佐委員が作成予定）。

・ＷＥＢ用あるいは電子データで委員が持つデータは簗瀬委員が編集予定。

・印刷屋さんからデータがもらえるかどうか、あるいは印刷がずれていないＰＤＦがもらえるかどうか確認。

「新書」編集委員会　１５：３０～１７：００
出席者：稲垣、岩佐、上野、桜井、鈴木、中村（洋）、簗瀬、太田

（１）　構成・目次と担当者の変更
執筆者は各章の担当者が決める。
・タイトル：間違いだらけの斜面利用～あなたの家は大丈夫？～
・第 1 章　人と斜面（後藤・鈴木）
対応すると思われるＱ＆Ａを参考のために記載。執筆者を決める際の参考に。
各章ごとにコラムを入れていく
・第 2 章　豪雨による斜面の災害（上野・桜井）
・第 3 章　地震による斜面の災害（釜井・太田）
・第 4 章　斜面災害を防ぐ（プロの視点）（岩佐・小川）
・第 5 章　あなたができること（住民の視点）（稲垣・金井）
・第 6 章　斜面のこれからの利用
・付録　相談事例
・細かい内容については、各章の担当者が再検討する。

（２）　企画書
講談社から出版しなくなったので、土木学会用の企画書を作成したが、まだ出版予定には入っていない。３０００部で１１００円程度のものにする。新書版、縦書き。１５０ページ程度。５６０字×１５０ページ＝８４０００字。文字だけとした場合には各章あたり１８７００字となる。

（３）　工程
原案は１ヶ月くらいの期間なので、時間的に無理があり、もう少し伸ばしたほうが良いのではないか。

（４）　各章・項の流れを作成し、全体の流れを作る。項立てはやさしい文章で読みたくなるような内容にする。全体のコンセプトとしては一般の個人が自分のこととして読むような内容にする。このため、興味深い話であっても専門的なものは抜いていくことも必要となる。（以下はフリーディスカッションのメモ）
・ストーリーを固めて、執筆依頼をする人から資料提供してもらい、資料から各章の担当者が文章を作るか、執筆者に文章を書いてもらうかを判断する。
・内容的に執筆者に全面依存するのはコラムと付録と図。
・箇条書きで全体のストーリーを固めていく。ストーリー作りで年内かかるのではないか。
・ターゲットは主婦。小学校四年生くらいにわかる文章で。
・コラムを先に集めるほうが良いのではないか。半ページから１ページくらいでか

いてもらうようにする。
・６．３の「防災になる樹林とその手入れ」のコラムは簗瀬委員にネタあり。
・「冒頭に示すシンボル的な事例」の意味。冒頭を読めばその章全体のことが想像できるようにする。
・「液状化」はコラムが良い。
・家に対して豪雨は外から土砂がやってくる、地震は足元がすくわれる、というようなわかりやすい話にする。
・「内水氾濫」は埼玉などでは身近な話
・稲垣委員が作成してきたような見出しを、その他の委員も作成し編集委員の中でメールのやり取りの中でつめていくようにする。
・年内に目次や流れがつくれるようにする。出版は来年いっぱいくらいでできるような工程にするのが良いのではないか。
・「はじめに」を鈴木委員に書いてもらい、本のコンセプトを各委員が共有して作成しやすくする。
・基本的なコンセプトは、間違いを指摘することではなく、普通では見落としてしまうような、気がつかないようなことを書く。
・宅地の選び方や、現に困っているようなことを意識して書く。
・良心的な不動産屋さんはどうしているのか、というようなことを小嶋委員に書いてもらったらよいのでは。
・宮川では、土石流の末端に役所・消防・避難所があった、というような話など。逃げるところが安全でないところがあるという話も。毘沙門の地すべりは避難所がやられた。
・議事録は、委員の方々にオープンにするというコンセプトなので、ＭＬで流す。

（５） 工程

９月２１日の委員会では、９：３０から災害学習マップと新書小委員会の編集委員会を開催する。新書は、そのときに項立てやあらすじを話し合うことにする。